

橿原市議会

第2回議会報告会

— 議会を、もっと身近に。 —

開催日:令和8年7月18日(土)10時00分～ **会場:**すみれホール



■ 本日の流れ

01 開会・あいさつ

02 予算特別委員会報告

03 各常任委員会報告

04 意見交換

05 閉会・アンケートのお願い

01

予算特別委員会

市の予算をチェックする委員会

物価高騰給付金
財政計画
LPガス・カプコン契約
商工会館土地賃借料訴訟
市債 (市の借金)
議会タブレット端末
職員メンタルヘルス
五井町し尿処理場用地への企業誘致
JR畝傍駅保存活用
企業版ふるさと納税
本庁舎建設
30年後のグランドデザイン
カンデオホテルのインバウンド率
アリーナよこ四条東池の活用
メディアプロモーション事業

女性会議 (私スタイル)
デジタル人材育成
デジタル窓口は3年後
中学部活の地域移行
防犯
デマンドタクシー
飛鳥向きのバス
移住
市民窓口業務委託
デジタル選挙
障がい児難聴支援
介護
こども食堂
病児保育
物価高と生活保護
不妊治療
健康診断

がん治療
休日夜間応急診療
運動公園温水プール体育館残土処理
農政いちご等
起業・創業支援
世界遺産:商品開発:観光パンフレット
八木中学改修 橋梁改修
市営住宅改修計画
災害備蓄
郷土教育
授業支援
学習支援
不登校
院内学級
シルバー人材センター草刈り契約
文化財発掘職員育成
子ども科学館万葉ホールなど改修
文化芸術 金春流の能楽
給食アレルギー
マイナンバー保険証に短期資格無し
特定健診
介護職員の処遇改善手当て

02

総務常任委員会

市の運営や防災、税金などを幅広く審査する委員会

橿原市総合防災訓練

2,708千円

事業の目的と概要

【危機管理課】

地域住民参画による防災訓練を実施（10月4日予定）することで自助・公助の意識を高め、地域防災力の向上を図ります。

訓練内容(案)

- ・応急手当訓練
- ・救命救急訓練
- ・避難所開設訓練
- ・車両展示
- ・啓発ブース

など



救命救急訓練



応急手当訓練



車両展示



啓発ブース

※訓練内容は今後変更となる場合があります。

※掲載写真はR6年度11月撮影

ICTの推進

4,384千円

【デジタル戦略課】

事業の目的と概要

新規 【デジタル人材育成事業】

行政においてもデジタルを活用した業務改革が不可欠です。
全職員が基礎的なデジタル知識を身につけ、業務改善や住民サービス向上を自ら考え実行できる人材を育てることが重要です。

「ITパスポート」及び「情報セキュリティマネジメント」試験は、基礎的な知識を獲得できる国家試験です。
受験手数料を負担し、全庁的な能力向上と人材育成を推進します。

また、オンライン講座のライセンス使用料を設け、IT知識を学びやすい環境を整えることで、初学者の理解を支援します。

【対象となる試験】

ITパスポート試験

情報セキュリティマネジメント試験

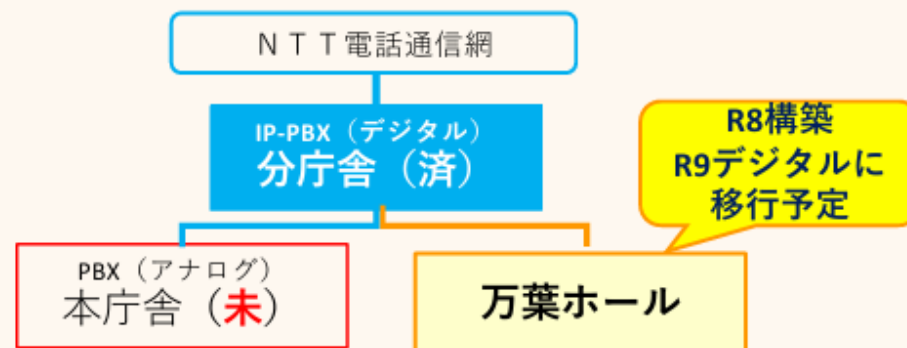
※いずれも（独）IPA（情報処理推進機構）実施

【IP-PBX（デジタル）移行事業】

PBXの一括管理が可能
既存LAN回線にて伝送

PBX（電話交換機）をデジタル化し、管理を集約することにより、コストの低減と管理効率化を図ります。

令和7年度：分庁舎及び中央公民館のPBXをデジタル化
令和8年度：令和9年度早期に更新を迎える万葉ホールPBXのデジタル化を行うため、必要な設備・環境の構築を行います。



※施設名は一部を抜粋。順次、対象全施設を集約化

ICTの推進で目指す市民サービス

～AIの活用と人材育成で、より便利な市役所へ～

これまで

紙中心の運用

- 来庁が前提
- 申請書への手書き
- 窓口ごとに説明、記入、手続きが必要



これから



- ✓ AIチャットや自動応答で24時間対応・案内を充実
- ✓ オンラインで完結できる手続きの拡大
- ✓ 来庁予約や事前入力で窓口時間を短縮
- ✓ 窓口では相談・支援を重視
デジタルが苦手な方も、安心して利用できる窓口へ

市民の皆さまにとっての3つのメリット

1 迅速化

手続きや事務処理が早くなり、待ち時間の短縮につながります。



2 利便性の向上

オンライン申請などが進み、市役所をより便利に利用できるようになります。

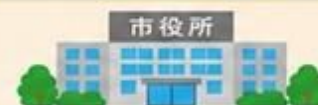


3 質の高い行政サービスの維持

業務の効率化により、限られた予算や人員でも、質の高い行政サービスを維持しやすくなります。



デジタル技術を上手に活用しながら、市民の皆さまにとって、より便利で利用しやすい市役所づくりを進めていきます。



03

厚生常任委員会

福祉・子育て・医療・健康など
市民の暮らしに関わることを審査する委員会

休日夜間応急診療所 順番待ちシステムの導入

311千円

事業の目的と概要

【健康増進課】

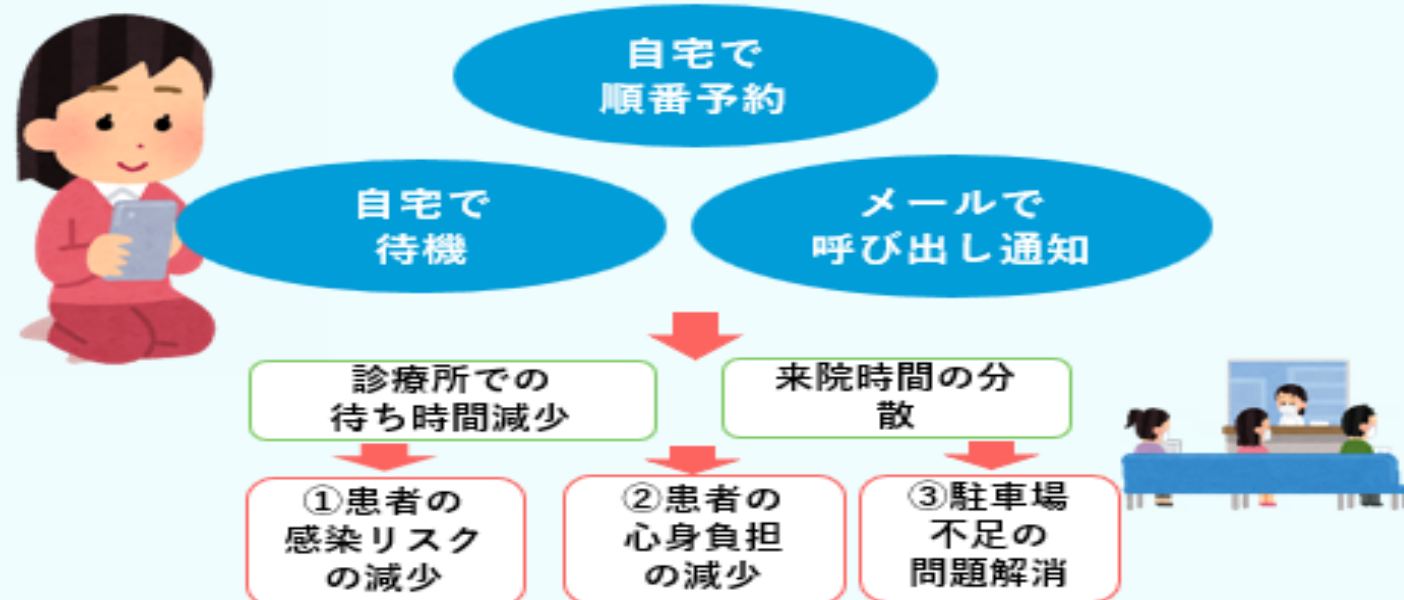
休日夜間応急診療所内での待ち時間が長いことによる、

- ① 患者の感染リスクの増加
- ② 患者の心身負担の増加
- ③ 繁忙期の駐車場不足

の問題を解消するため、順番待ちシステムを導入します。

新規

順番待ちシステム導入で期待されること



Before

1



2



3



4



After

5



6



7



8



※画面はイメージです

世界遺産登録の推進

69,368千円

【世界遺産登録推進課】

事業の目的と概要

令和8年7月の世界文化遺産登録が予定されている「飛鳥・藤原の宮都」の解説の充実と、受け入れ環境の整備を実施し、多くの人にその価値と魅力を発信します。

拡充 世界遺産解説促進業務：30,000千円

令和7年度末に公開の世界遺産解説アプリに、本薬師寺跡の解説コンテンツを追加します。

新規 世界遺産構成資産解説板設置事業：5,000千円

世界遺産の解説板を作製し、藤原宮跡、本薬師寺跡、菖蒲池古墳に設置します。

新規 藤原京跡トイレ設置事業：30,922千円

令和7年度に供用を開始した朱雀大路跡西駐車場の周辺地に、多目的用を含めたトイレを設置し、来訪者の利便性の向上を図ります。

新規 藤原京資料室解説拡充事業：3,446千円

橿原市藤原京資料室において、世界遺産「飛鳥・藤原の宮都」の説明展示や、映像室の新設を行います。

アプリを活用した
世界遺産の解説



世界遺産の価値を伝える中核
施設「藤原京資料室」の充実



「飛鳥・藤原の宮都」世界遺産登録への歩み



令和8年7月 世界遺産登録（予定）！

世界遺産登録はゴールではなく、新たなスタートです！ 5

拡充

世界遺産解説促進業務 「本薬師寺跡」の解説コンテンツを追加



スマートフォンで現地にいながらVR体験！
藤原宮跡の現地でアプリを起動すると、世界遺産が
復元映像で出現



図は既存の大極殿のVRイメージです



AR（拡張現実）モード

現地で往時の建物を重ねて表示



VR（仮想現実）モード

どこからでも世界遺産を体験



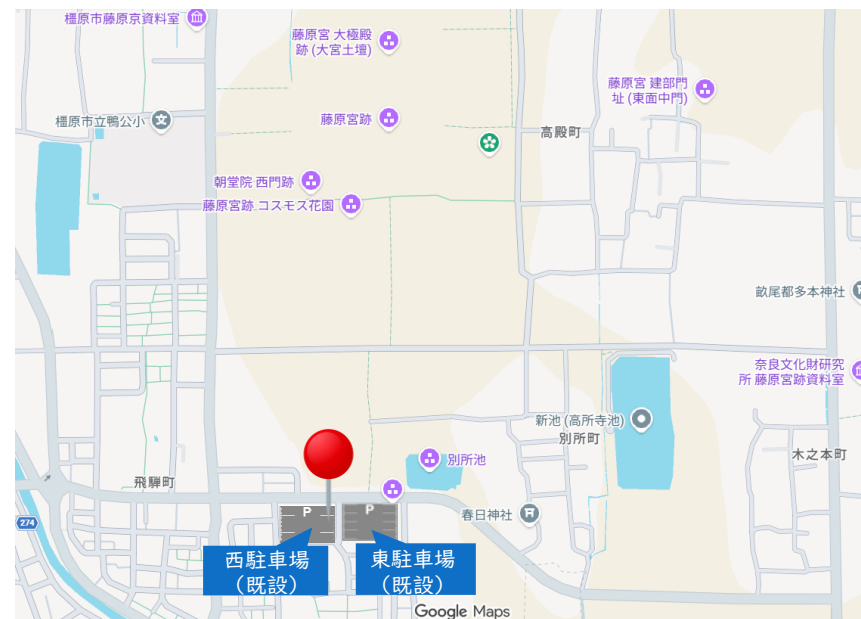
音声ガイド付き

解説ナレーションで深く学習

新規

藤原京跡トイレ設置事業

令和7年度に供用を開始した朱雀大路跡西駐車場の周辺地に、
多目的用を含めたトイレを設置し、来訪者の利便性の向上を図ります。



04

文教常任委員会

学校教育や文化、スポーツなどについて審査する委員会

令和8年度 給食費の無償化

5億4071万1千円

【教育総務課】

事業の目的と概要

物価高騰の影響を受けている保護者の負担を
軽減するため

令和8年度の

市立小・中学校の学校給食費を無償化

小学校

月額6,000円×11か月分

中学校

月額6,500円×11か月分



★さつまいものみそ汁★
有機農業の日（12月8日）にちなみ
橿原市産有機によるさつまいも使用

国の小学校給食費の抜本的な負担軽減に併せて
橿原市独自の取組として実施されます

国の負担 → 小学生1人あたり 5200円/月

※小学校の実際の給食費との 差額800円/月 と
中学校の給食費の全額 は
市の一般財源と国の「重点支援地方交付金」を
活用して実施



中学校の部活動の地域展開

事業の目的と概要

【スポーツ推進課】 【生涯学習課】

令和8年度から**休日の学校部活動の完全廃止**に伴い、
中学生が休日も継続してスポーツ・文化活動に取り組める
環境を整備します。

- ・ 地域クラブ活動の運営全般を一括委託
- ・ 統括コーディネーターによる一元管理
- ・ 指導者配置・保護者対応・事故時対応まで包括的に実施



2781万円

今年度に入ってから進捗状況

設立クラブ数 49



スポーツ活動 / 42クラブ

文化活動 / 7クラブ



参加生徒数 1220人 (5月末3次募集後)

- ・ 指導者バンク登録者 232人 (5月末)
そのうち130名がマッチング
- ・ 活動費用 今年度は 月/1000円



園や学校のハード面整備

- ・ こども園・幼稚園施設の改修 トイレ・床・空調設備改修 **2億4030万円**



- ・ 小・中学校のトイレ洋式化 計画的に洋式に改修中 **1億2290万円**



- ・ 学校の長寿命化工事 **23億4665万1千円**

八木中はR.8~R.10で実施
白檀小は6月に完了し2学期から使用開始



- ・ 体育館・特別教室等における空調設備の設置

体育館・特別教室ともに令和8年度から令和9年度に全校
(小学校15校、中学校6校) **の設置完了を予定**

令和8年度事業費
6億110万円

債務負担行為設定
令和9~22年度
31億9386万6千円



スクールサポート スタッフの配置

2008万6千円

教員の「働き方改革」の実現を図るため市内小中学校全校
(小学校15校、中学校6校)に配置します

<スクールサポートスタッフ>

教員の事務作業や授業準備を補助する
教育支援スタッフ

【過去実績】R6年度・・・1校（小・1校） R7年度・・・5校（小4校・中1校）



学校図書館司書の配置

新規

184万1千円

図書室の環境整備で児童の読書習慣の定着を促進や「調べ学習」等の授業や学習の支援を行う図書館司書の配置

※令和8年度はモデル校として小学校1校を指定し、効果検証の上、次年度以降の展開を検討していきます。



授業改善指導員等の配置

399万7千円

<授業改善指導員>

新規

教員の授業力・指導力を向上させ、樫原市全体として教育の質の向上を図るため、授業改善指導員を任用します

<郷土学習推進員>

児童生徒の地域を愛し、大切にしようとする心を育てるため、郷土学習推進員を任用します。



小学生の体力強化

467万2千円

市内小学生の体力の向上を図るため 非常勤講師
(体育専科)を配置します。

※令和8年度は強化対象の小学校（2校程度）を指定し、3・4年生に体育専科の教員を配置します。



05

建設常任委員会

道路・公園・住宅・上下水道など、
まちづくりに関わることを審査する委員会

A I デマンドタクシーの運行

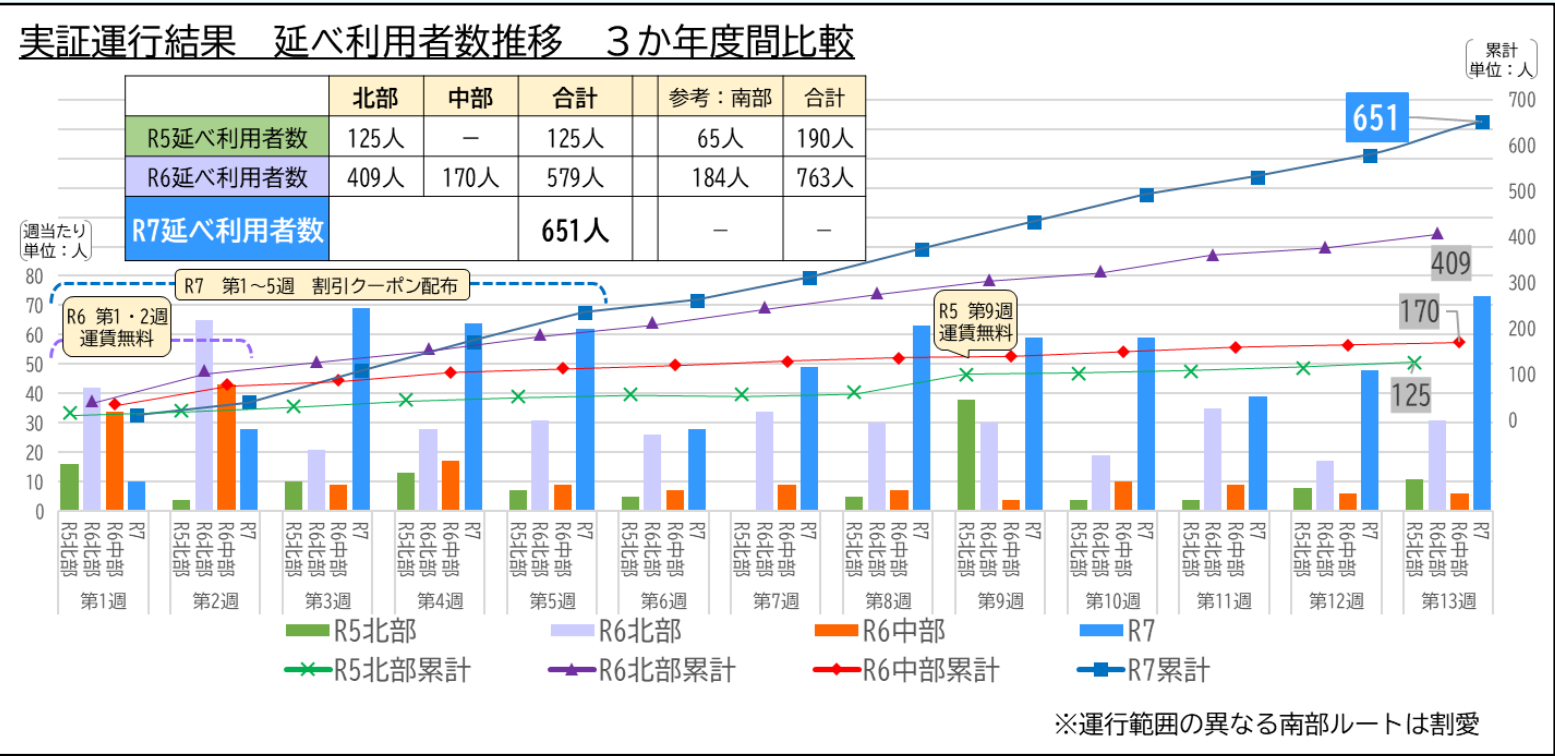
9,810千円

【都市計画課】

事業の目的と概要

真菅地区において、地域住民の主体的な取組みを支援し、持続可能な新しい公共交通を確保するため、令和5年度から令和7年度まで乗合タクシーの実証実験を行いました。

令和8年度は、令和7年度に実証実験を実施した運行エリアにおいて、A I デマンドタクシー「のるーと檀原ますが号」の本格運行を行います。



真菅地区における実証運行について

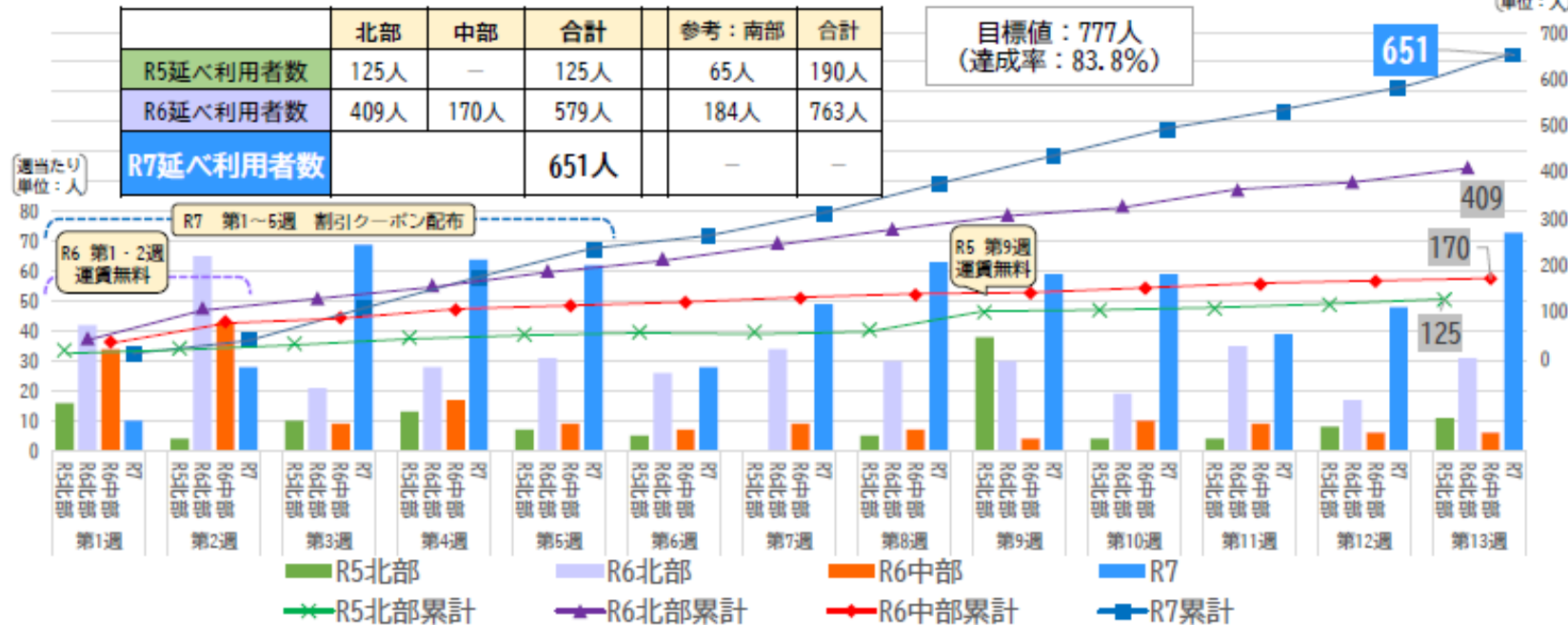
令和7年度運行概要 「のるーと櫃原ますが号」

運行方式：デマンド型乗合タクシー
 運行期間：令和7年11月1日～令和8年1月31日（70日間）
 運行曜日：月曜日～土曜日（日・祝日・12月29日～1月3日を除く）
 運行時間：9時～15時 運賃：300円
 11月1日～11月29日の期間、600円割引クーポン配布（アプリ限定）

定時定路線型 R5 R6
 ルート・ダイヤが固定
 決まった停留所で乗降 <バスに近い運行>

デマンド型（ミートンポイント方式） R7
 ルート・ダイヤがなく、予約に応じて運行
 決まった乗降ポイントで乗降 <タクシーに近い運行>

実証運行結果 延べ利用者数推移 3か年度間比較



※運行範囲の異なる南部ルートは割愛

実証運行エリア（ルート）・運行方法の変遷

エリア	ルート			
	停留所	運行時間	運行便数	運行台数
北部	東廻り（月水金）			
	6か所	9:00～16:30	12便/日	1台
	西廻り（火木土）			
南部	7か所	9:00～16:30	8便/日	1台
	医大方面（午前）			
	9か所	9:00～12:00	4便/日	1台
	坊城方面（午後）			
	11か所	13:00～17:00	4便/日	1台

令和5年度の反省点

カバー範囲が少ない	運行が複雑	便数が少ない
-----------	-------	--------

令和6年度への反映

1) 中部ルート追加 2) 乗り継ぎで広い範囲を移動	各ルートをスマート化	増車して対応
-------------------------------	------------	--------

定時定路線型の枠組みで工夫

エリア	停留所	運行時間	運行便数	運行台数
北部	10か所	9:00～17:00	8便/日	1台
中部	12か所	9:00～17:00	8便/日	1台
南部	12か所	9:00～17:00	12便/日	2台

令和6年度の反省点

停留所まで遠い行き先のニーズを網羅できていない	時間が合わない	特に、夕方の利用が少ない
-------------------------	---------	--------------

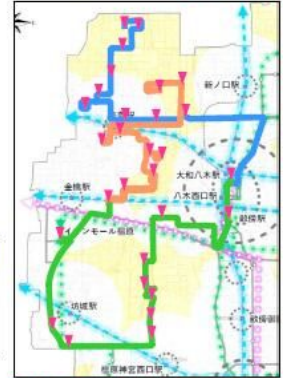
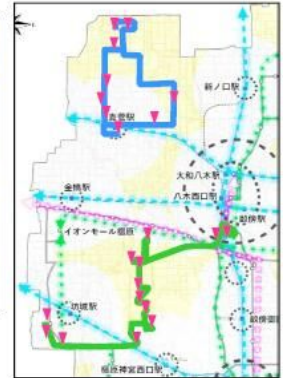
令和7年度への反映

乗降できる場所の増加	デマンド型でそれぞれのニーズに対応	運行時間帯の短縮
------------	-------------------	----------

枠組みを変えて最適化・効率化

エリア	乗降場所	運行時間	運行便数	運行台数
※	48か所	9:00～15:00	予約による	1台

※R6の北部・中部エリアを包括

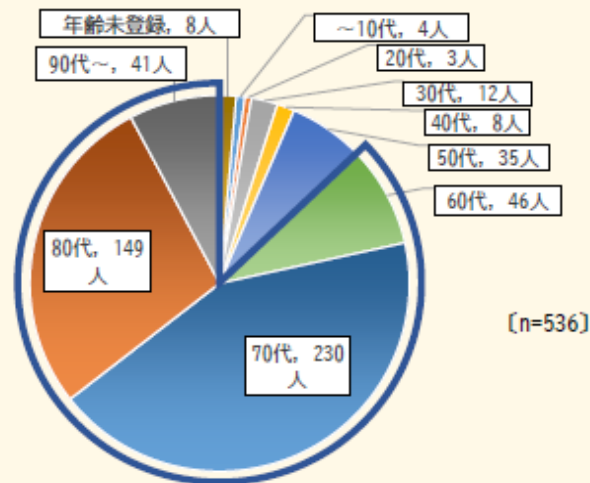


実証運行結果 乗車降車区間 利用頻度

	乗車した場所	降車した場所	利用回数	利用の 全体比率
1	スーパーセンタートライアル／かとうメ ディカルモール豊田	ミグランス	42回	7.8%
2	八木グリーンタウン公園（南）／集会所	ミグランス	26回	4.9%
3	八木グリーンタウン公園（北）	ミグランス	20回	3.7%
4	真菅地区公民館	ミグランス	18回	3.4%
5	ミグランス	スーパーセンタートライアル／かとうメ ディカルモール豊田	16回	3.0%
5	ミグランス	真菅地区公民館	16回	3.0%
7	セブンイレブン榎原中曽司町店	ミグランス	14回	2.6%
8	大垣町	ミグランス	13回	2.4%
9	いわれ西自治会館	ミグランス	11回	2.1%
9	北妙法寺町南	ミグランス	11回	2.1%

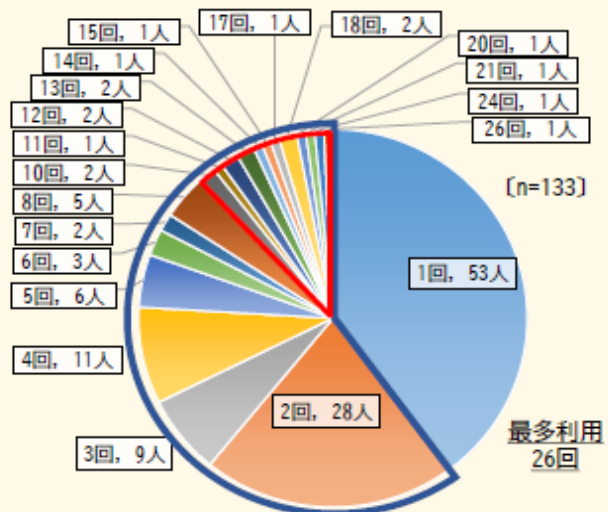
年代別の利用者数

(利用予約した人の年齢で集計)



- ・60代以上の利用率が87% (前年度:90%)
- ・60歳未満の利用率が12% (前年度:10%)

同じ利用者が利用した回数



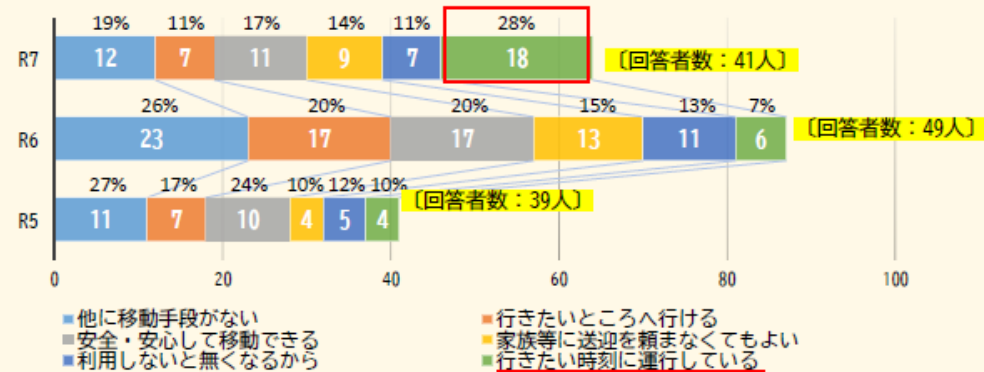
- ・2回以上の利用者が60% (前年度:60%)
- ・10回以上の利用者が12% (前年度:4%)

利用者アンケートより「利用した理由(単位:人)」 【複数回答可】

(過年度比較)

実施期間: 令和8年1月13日～1月31日

実施方法: 車内配布



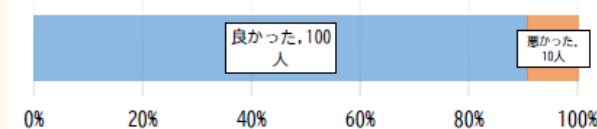
・「行きたい時刻に運行している」の評価が高まっている

利用後の評価(アプリ利用者)

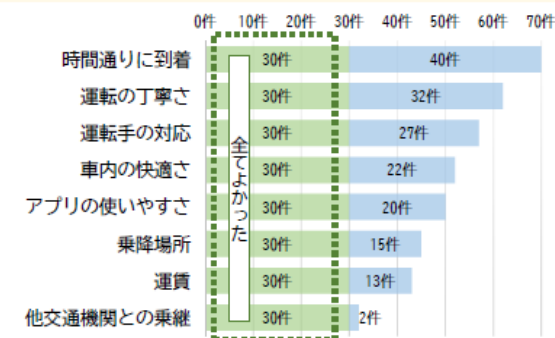
(アプリ予約での利用後に、表示される利用評価フォームの回答集計)

・利用の満足度

(n=110)



・具体的な良かった点



・時間の正確さ(「時間通りに到着」と、接遇・利用環境の良さ(「運転の丁寧さ」「運転手の対応」「車内の快適さ」)が高く評価されている

分析・考察

(運行結果より)

- ・延べ利用者数の目標(稼働率や乗合率などを複合的に考慮して設定)の達成率は約84%となり未達であったが、車両の減少と運行時間の短縮を加味すると、前年度と比べて3倍以上の運行の効率化を果たせた
　　<運行1時間当たりの利用者数>
　　(R7) $651人 \div 70日 \div 6時間 \div 1台 = 1.550人/台/時間$
　　(R6) $579人 \div 73日 \div 8時間 \div 2台 = 0.495人/台/時間$
- ・週当たりの延べ利用者数の変動が前年度までと比べて少なく、期間を通して比較的高い水準を維持していた
- ・前年度と比べて乗降ポイント(停留所)を2倍以上設置でき、前年度の運行でカバーしきれなかった八木グリーンタウンなどの地域でも多く利用された
- ・利用の状況としてはミグランス(大和八木駅周辺)への移動が往復ともに多い
- ・60代以上の利用がほとんどであるが、前年度までよりも60歳未満の若年層の利用割合が増加した
- ・リピーターが多く、特に10回以上の高頻度で利用された方は前年度の3倍となった

(利用後の評価・利用者アンケートより)

- ・アプリ利用者による利用後の評価からは、全体的に利用の満足度の高さが伺える
- ・具体的な良かった点からは、到着時間の正確さや車内での接遇・利用環境の良さの評価が高く、日頃から運行サービスに従事しているタクシー事業者が運行を担ったことによる利点が大きかったことが伺える
- ・利用者アンケートにおいて、のるーと樫原ますが号を「利用した理由」について質問したところ、これまで低かった「行きたい時刻に運行している」の評価が高まっている。定時定路線型であったために乗車できるタイミングの限られていた過年度と比較して、より時間的なニーズへの対応性が高まったとみられる

まとめ

本地区における3年目の実証運行では、前年度までの課題を見直し、運行形態を定時定路線型からデマンド型へと刷新した。その結果、運行効率の向上と利用者数の増加を両立できた。延べ利用者数は目標値には届かなかったものの、期間を通じて安定した利用実績であったことやリピーター層の着実な増加が見られたことが、「デマンド型への転換」という今回の取り組みの方向性が妥当であったことを示唆している。

利用者アンケートにおいては、「行きたい時刻に運行している」という肯定的な回答が著しく増加した。これは、従来の固定ダイヤにはなかった「いつでも予約・利用できる」という時間的な融通性が、今回の主たる利用者である高齢者の細かな生活ニーズに合致した結果と言える。

一方で、移動先が地域外にあるミグランスに偏り、地域内での回遊が限定的であった点は、今後発展的に解決していくべき課題である。

公共交通が「地域インフラ」として定着すれば、それを前提とした新しい生活スタイルが確立されていく。このデマンド型乗合タクシーも長期的に継続運行することで、徐々に近場での移動手段としても浸透していき、やがて「地域内での移動」「中心部への移動」とともに満遍なく利用される域内移動手段になると期待できる。

(今回は短期間の試行ゆえに、「普段の近場での生活行動は変えないで」という心理的影響があったものとみられる。)

また、これまでの実証運行を通じて主に高齢者の移動を支援してきたが、今回の運行では10代や子連れの家族での利用も確認された。この事実は、本事業が単なる高齢者向けの福祉施策ではなく、世代を問わず地域全体を支える「交通インフラ」として根付くポテンシャルを十分に有していることを示している。

今後は、鉄道やバスといった「幹」「枝」の交通、および一般タクシーとの役割分担とバランスに留意しつつ、本事業を地域交通における「葉」の交通と位置づけ、地域全体の移動利便性の充実を図っていく。

まずは「地域の便利な交通手段」としての認知を確立し、利用者の分母を拡大させることを最優先課題とし、持続可能な地域交通の実現を目指したいと考えている。

畝傍駅駅舎と駅周辺の再整備

237,348千円

【市街地整備課】

事業の目的と概要

重厚な社寺風建築物としての佇まいや貴賓室を有する鉄道駅として、市を象徴する誇るべき建築物である畝傍駅の駅舎と駅周辺の活用検討を進めています。

令和7年度は、過年度に実施した駅舎及び駅周辺の活用提案募集にて選定された事業者と協議・交渉を行い、事業化の可能性を検討しました。

新規 ・ 設計業務等 74,866千円

新規 ・ 測量調査業務 5,282千円

新規 ・ 用地購入費 157,200千円

令和8年度は、駅舎改修や駅前広場整備に向けて、設計・測量調査・用地取得を行います。

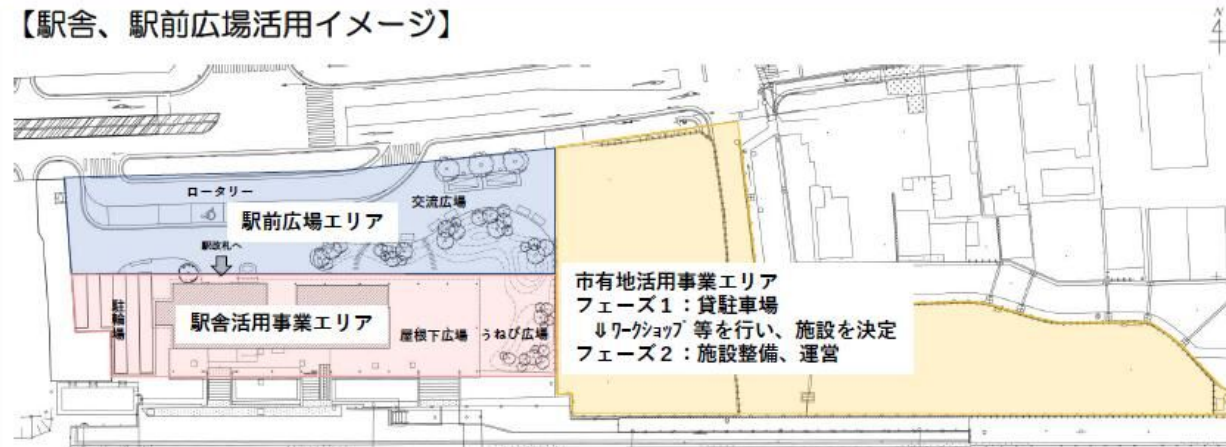
また、西日本旅客鉄道(株)や事業者と協議を継続し、令和10年度の事業開始を目指します。

整備後のイメージ



JR畝傍駅について

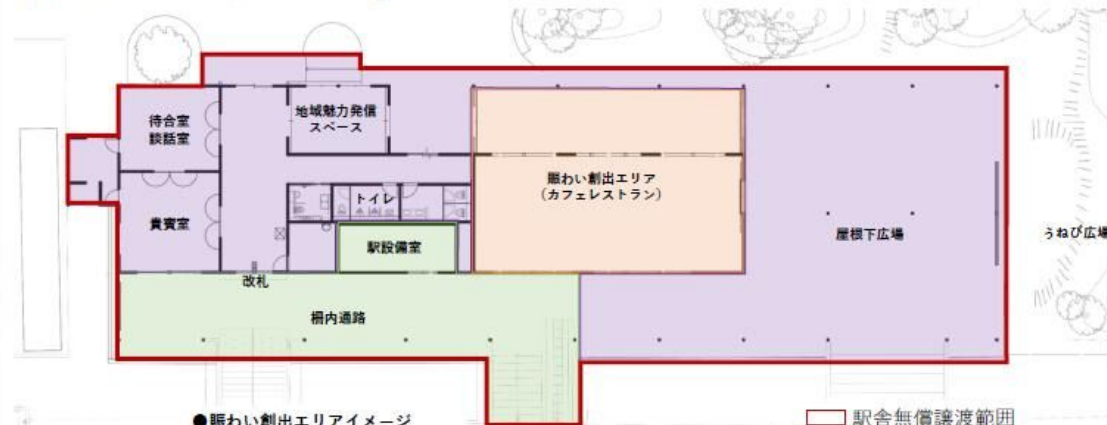
【駅舎、駅前広場活用イメージ】



●駅舎外観イメージ（夜間）



【駅舎レイアウトイメージ】



●賑わい創出エリアイメージ



- 駅舎無償譲渡範囲
- 公共的利用
- 収益事業
- 鉄道施設

■駅舎の活用方針（案）■

諸室・空間	活用方針
室内	
待合室・談話室	地域住民・駅利用者の待合や談話室として活用
貴賓室	橿原市民のライフスタイルの質の向上、シビックプライドの醸成を図るため、まちづくりや地域活動に係る会議やイベント等を行うワークショッブルームとして活用
賑わい創出エリア	自主事業により、交流人口の増加による地域の活性化を図るため、カフェレストラン等の賑わいに資する用途として活用
地域魅力発信スペース	万葉まほろば線沿線や中南部地域の魅力を発信し、駅周辺への集客や新たな人流を生む拠点および移住促進等に寄与する地域の魅力発信拠点として、パンフレット類の配架、パネル、ディスプレイまたは地域産品サンプル等の展示空間として活用
室外	
屋根下広場 および うねび広場	○平常時 一般利用を想定したベンチやテーブルなどを必要に応じて配置し、広く開放することで、地域住民・来訪者・学生などの交流の場として活用
	○イベント開催時 音楽マルシェ等の既存活動団体や、まちづくり等に係る団体が主体となるイベント空間として活用

【JR西日本との役割分担（案）】

対 象	施 工	費用負担	財 産	保守管理	用 地	備 考
①駅舎の利活用	橿原市	-	-	-	JR西	-
②駅舎内トイレ					-	
③駅前広場					橿原市	-
④うねび広場					JR西	-
⑤駐輪場					-	
⑥駅舎内の駅設備移転	JR西				-	鉄道施設
⑦既設トイレ撤去	JR西	-	-	-	-	-

【事業者との役割分担（案）】

■駅舎活用事業エリア■ （指定管理者制度を想定）

	橿原市	事業者
【初期投資】	■駅舎の耐震改修等に関する詳細設計 ■駅舎の耐震改修、土木建築工事一式（賑わい創出エリアを除く） ■うねび広場の造成および植栽工事 ■駐輪場の敷地造成工事	■賑わい創出エリアの詳細設計 ■賑わい創出エリアの内装および設備工事 ■駐輪場の秩序維持に要する施設整備
【運営管理】	■駅舎内外の維持修繕（軽微でないもの） ■基礎的な管理運営に要する費用の負担	■駅舎内外の日常清掃と軽微な維持修繕 ■駅舎内外の施設の運営管理 ■地域魅力発信スペースの運営管理 ■駐輪場の運営管理 ■賑わい創出エリアの運営管理と建物使用料の負担

■駅前広場エリア■ （市道としての管理を想定）

	橿原市	事業者
【初期投資】	■駅前広場の詳細設計および整備工事一式	-
【運営管理】	■駅前広場の維持管理 ■駅前広場内の植栽管理	-
	-	■駅前広場内の除草・清掃等の日常管理

■市有地活用事業エリア■ （事業用定期借地契約等を想定）

	橿原市	事業者
【準備】	-	■地域ニーズの把握（ワークショップの実施等） ■実施計画の作成
【運営管理】	-	■施設の設計施工および運営管理 ■土地賃料の負担 ■施設の除却（契約期間満了時）

【概算事業費】

■初期投資■

		(千円)			
		令和6,7年度	令和8年度	令和9,10年度	合計
駅舎	耐震診断・基本設計	11,924			351,424
	詳細設計		44,500		
	耐震・改修工事			295,000	
駅前広場	基本計画	17,369			274,169
	測量・調査		5,300		
	用地取得		157,200		
	詳細設計		26,300		
	整備工事			68,000	
その他	事業化支援	12,837	4,200		17,037
合計		42,130	237,500	363,000	642,630
	うち、国補助		116,650	181,500	298,150
	県補助		20,997	32,670	53,667
	市単費	42,130	99,853	148,830	290,813

■維持管理■

		(千円)				
		令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
駅舎	支出 指定管理料		-4,260	-8,520	-8,520	-8,520
	支出 土地賃料（市⇒JR）	-1,120	-1,120	-1,120	-1,120	-1,120
	収入 建物使用料（事業者⇒市）		1,800	3,600	3,600	3,600
	収入 事業者負担		600	1,200	1,200	1,200
駅前広場	支出 植栽管理（駅舎部分も含む）		-750	-1,500	-1,500	-1,500
	収入 道路占用料		100	200	200	200
市有地	支出 -					
	収入 土地賃料（事業者⇒市）	2,400	2,400	2,400	9,000	9,000
合計		1,280	-1,230	-3,740	2,860	2,860

（初期投資）

※令和6,7年度は契約額、令和8,9,10年度は予算見込額

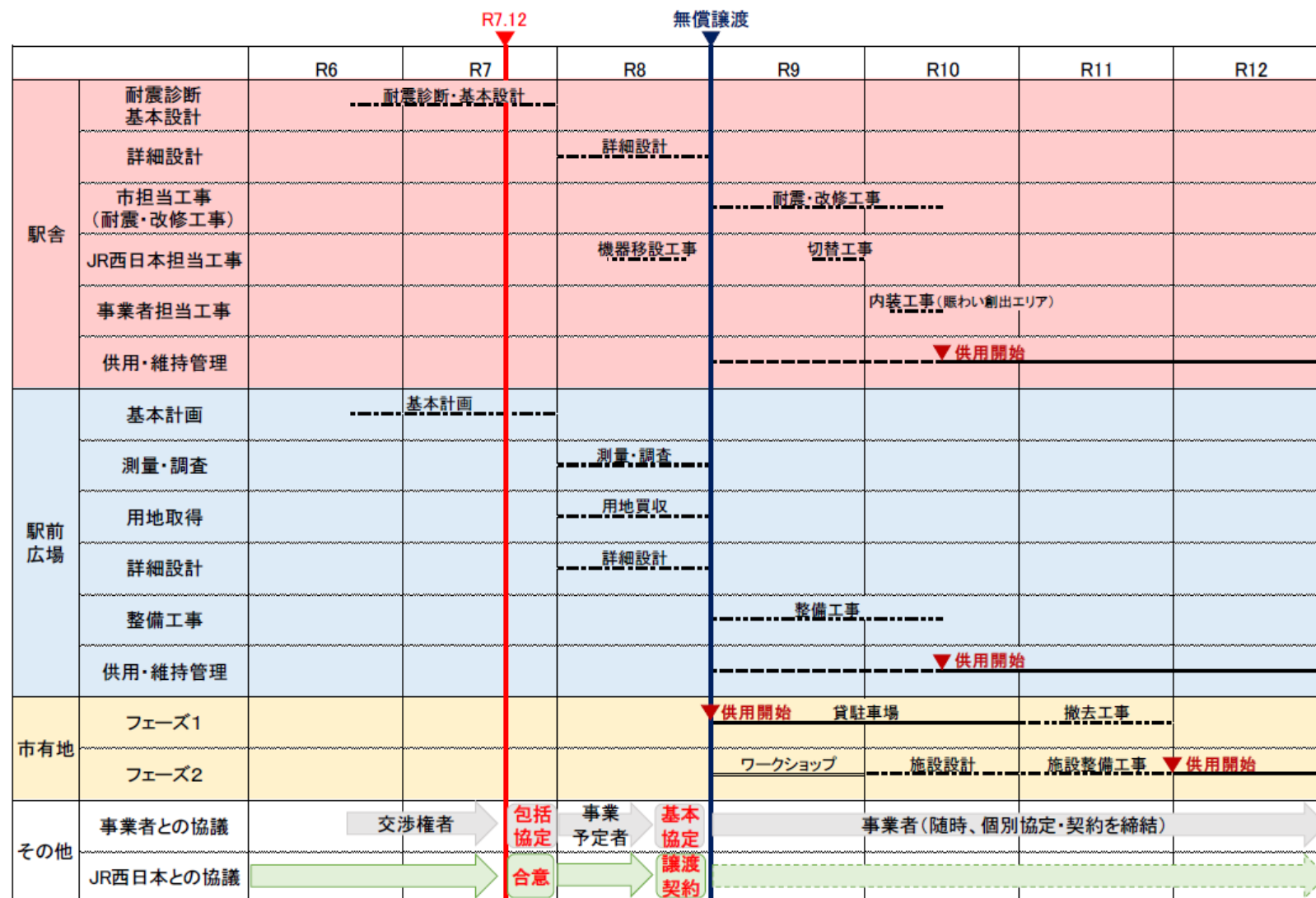
※国補助は「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」を想定

※県補助は「まちづくり事業償還金補助金」を想定（実際の償還は実施年度の次年度になる）

（維持管理）

※令和10年度は10月から供用開始のため土地賃料以外は半額と想定

【想定事業スケジュール】



令和7年度 交渉権者と包括協定の締結（配置計画、役割分担、事業スケジュール案等） = **事業化の合意**

包括協定締結を受けて、JR西日本と駅舎活用方針の合意 = **駅舎無償譲渡の決定**

令和8年度 事業予定者と基本協定の締結（事業計画・スキーム、リスク分担等）

JR西日本と駅舎無償譲渡契約の締結

令和9年度～ 事業者と個別協定・契約の締結（指定管理協定、事業用定期借地契約等） = **供用開始**

意見交換

皆さまのご意見をお聞かせください

本日のテーマ

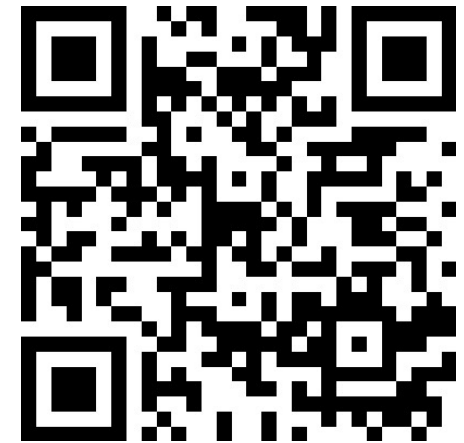
予算について

ご清聴ありがとうございました

議会を、もっと身近に。

お問い合わせ

檀原市議会事務局



アンケートはこちら！